

最上稲荷妙教寺の近代和風建築

安 川 満

はじめに

最上稲荷妙教寺は、高松稲荷などとも呼ばれ正月には岡山県で最も多い 50 万人を超す初詣客が訪れる。稲荷社として知られますが、日蓮宗の寺院であり本尊は法華経を神格化した「最上位経王大菩薩」で、白狐に騎乗した女神像で表されます。神道の伏見稲荷、曹洞宗の豊川稲荷と並び日本三大稲荷に数えられますが、報恩大師開基伝承もあり修験道の道場的な色彩も感じられます。

1. 妙教寺の歴史

妙教寺は寺伝によれば、天平勝宝 4 年 (752)、報恩大師がこの地で最上位経王大菩薩を感得し、延暦 4 年 (785)、病氣平癒に功があったとして、桓武天皇の発願により「竜王山神宮寺」が創建されたことに始まるとされます。備中高松城の水攻めの際に堂宇を失うが、慶長 6 年に「稲荷山妙教寺」として復興したという。寛永年間の「備中国絵図」にはすでに「稲荷村」と記載されており、古くから稲荷社があり信仰を集めていたことがわかりますが、『吉備郡誌』によると「寛保 2 年 (1742) 其側の小堂を妙教寺と改め建立す」とされており、寛永 11 年 (1633) の「寺院本末帳」にはその名は見えません。天明 6 年 (1786) の「寺院本末帳」には京都妙顕寺の末寺として「備中国賀夜郡高松妙教寺」とあることから、18 世紀半ば頃に寺院としての整備が大幅に進められたことが窺われます。

2. 妙教寺の諸堂宇

妙教寺は竜王山山麓の約 602,000㎡の敷地に、寛保元年 (1741) の霊応殿本殿から昭和 54 年の霊光殿 (本殿) に至るまで多数の堂宇、建物が建てられています。インドの仏塔を思わせる仁王門、寺院的側面を代表する妙教寺の伽藍、稲荷社的側面を代表する霊光殿、本殿新築に際し移築された旧本殿 (霊応殿)、眷属神をまつる七十七末社群など多くの建物が並び、独特の景観を形成しています。これらの多くは、当寺の隆盛とともに明治～大正期に新築あるいは大幅に改築され、整備されてきたものです。

特に播磨・木津大工による霊応殿本殿、名古屋の大工棟梁・青山長七による本堂や霊応殿経王殿、彫刻で埋め尽くされた七十七末社群など、当地のほかの寺社ではみられない特徴的な建物が並びます。こうした建物群を細かくみていくと、高い技量をもつ名古屋周辺の大工とそのもとで腕を振るい影響を受けていく地元の大工の関係がうかがわれます。さらに昭和 32 年 (1957) の仁王門は仏教考古学者・石田茂作のアイデアで、東京大学教授・岸田日出刀が設計を担当しています。

4. まとめ

最上稲荷妙教寺の建築の多くは、霊光殿 (新本殿) の建築や境内の整備などに伴い幾度も場所を移動していますが、日蓮宗系の稲荷社という特異性の中、当地のほかの寺社では類をみない独自性の強い装飾性の高い建物群、独特の景観を形成しています。石灯笼や玉垣の銘から関西を中心に広く信仰を集めており、戦前には参拝専用の中国鉄道稲荷山線が門前まで至り、奥の院までケーブルカーが敷設されるなど隆盛を極めていました。現在も初詣や節分などには多くの人を訪れます。

主な参考文献

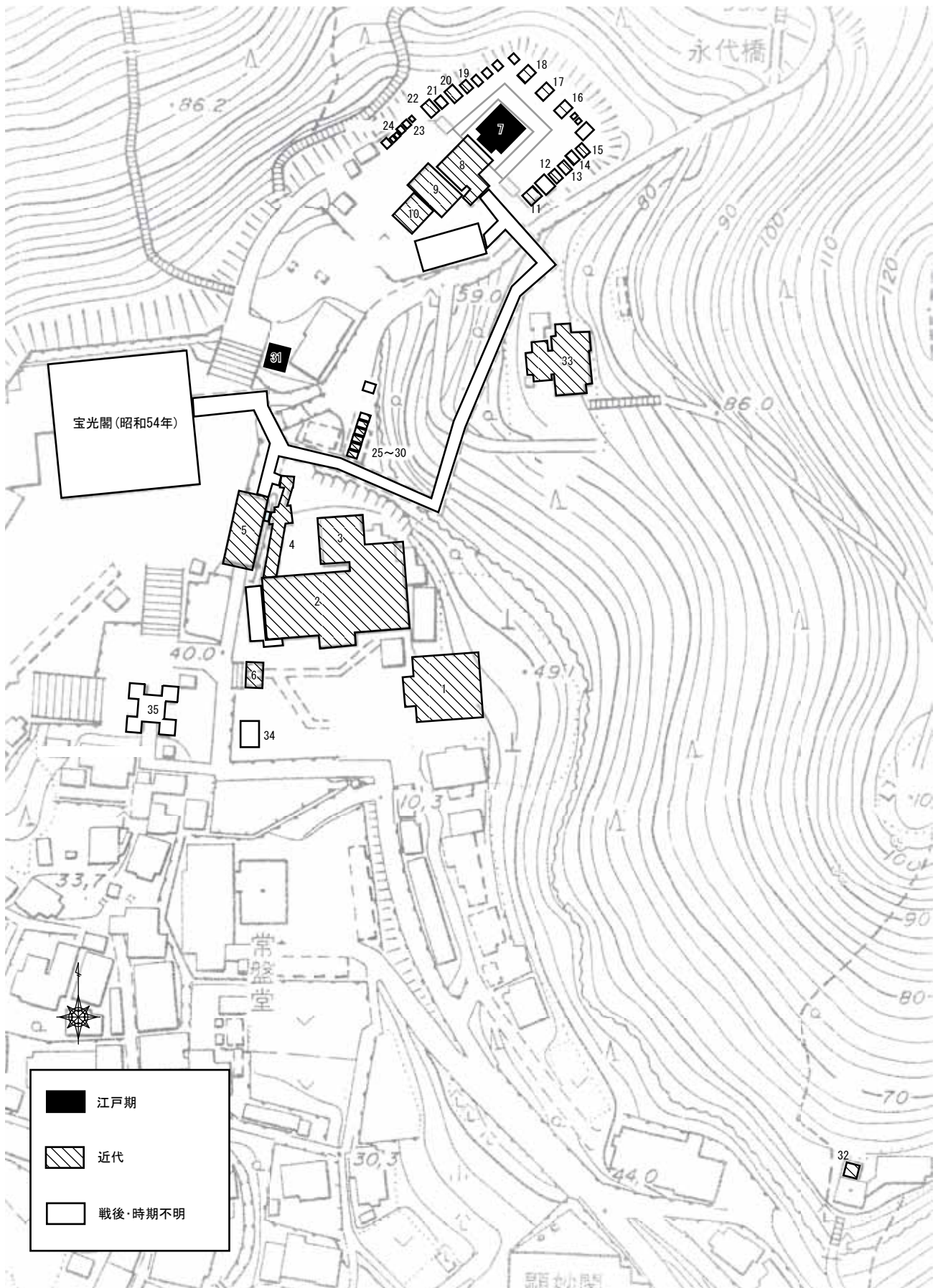
永山卯三郎 1937 『吉備郡誌』下巻 吉備郡教育委員会

中尾 堯 1985 「最上稲荷と妙教寺」『稲荷信仰の研究』山陽新聞社

加原耕作 1985 「最上稲荷の参道と門前町」『稲荷信仰の研究』山陽新聞社

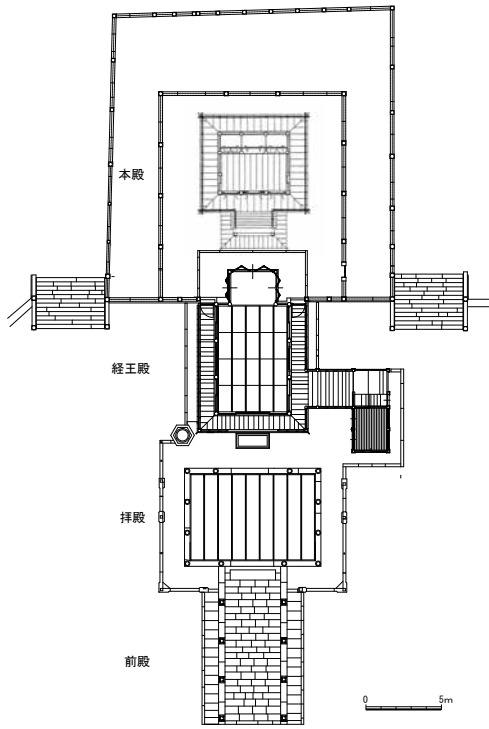
藤田盟児 1996 「妙教寺」『岡山市の近世寺社建築—岡山市歴史的建造物 平成 6・7 年度調査報告—』岡山市教育委員会

稲荷日應 2003 『潤華—最上さまの教え』最上教報社

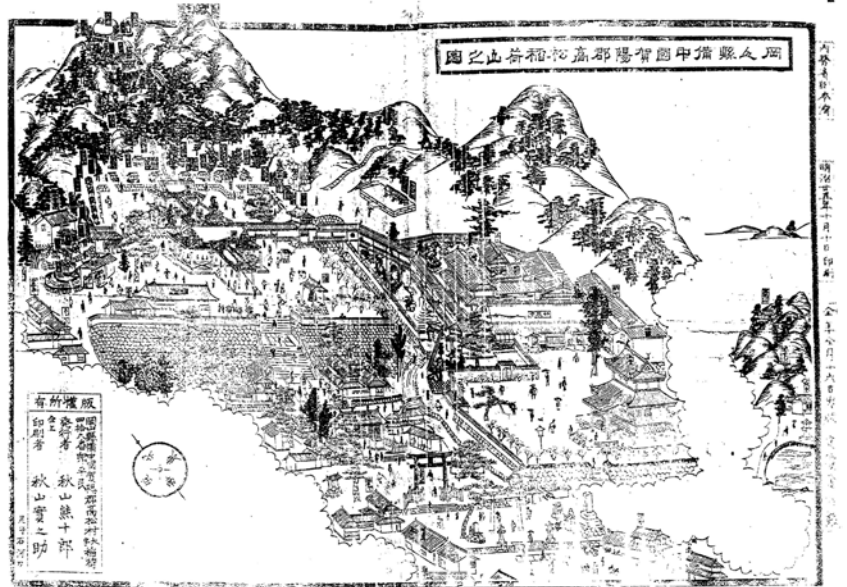


最上稲荷妙教寺の建物群 (1/1,000)

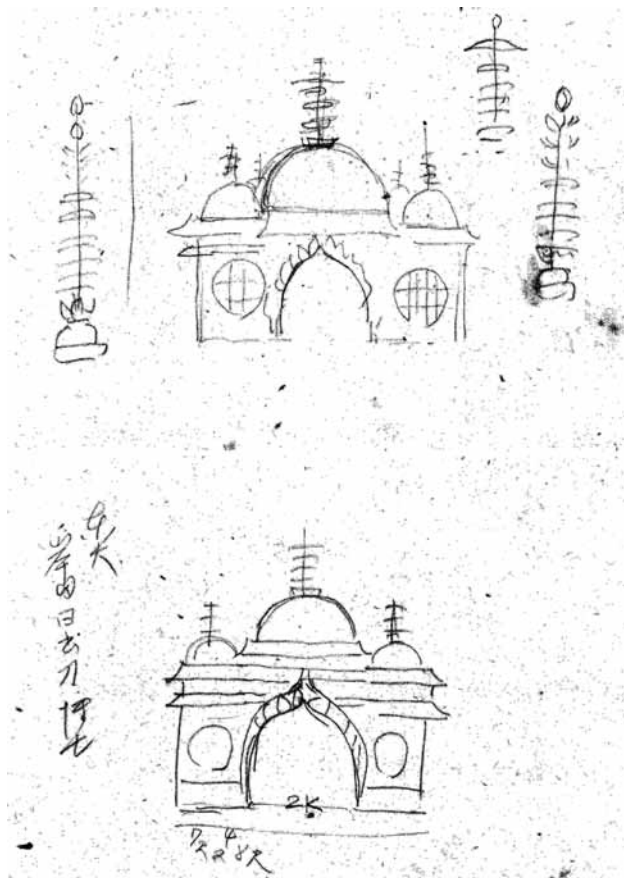
番号	名称	構造及び形式	建築年	大工棟梁 設計者等
	霊王殿本殿	三間三間、入母屋造平入、向拝一間、檜皮葺	寛保元	野村長衛門家慶
1	本堂	三間六間、向拝一間、入母屋造重層本瓦葺	明治 15	青山長七ほか
2	客殿及び庫裏	入母屋造、向唐破風造玄関付、本瓦葺	大正 6	大曾根綱次郎 河原佐吉ほか
3	寒松軒	入母屋造棧瓦葺、二階建、建築面積 76.12㎡、年	大正 6	
4	太鼓楼及び渡り廊下	太鼓楼：宝形造、本瓦葺、二階建 渡り廊下：木造平屋棧瓦葺	明治 30 頃	
5	宝光閣	木造平屋棧瓦葺、軒先銅板葺、入母屋造千鳥破風付	明治 42	水野信太郎
6	御水舎	切妻造棧瓦葺、水盤付	昭和 29	宮島(浅草屋)光次郎
7	山門	一間薬医門、切妻造、本瓦葺、左右袖塀本瓦葺付	大正 10	芦田幸太郎・秋山誉市
8	霊応殿経王殿	三間三間、切妻造妻入、檜皮葺、背面唐棟角屋付き	明治 30	青山長七
9	霊応殿拝殿	三間三間、入母屋造平入、檜皮葺	明治 19	青山長七
10	霊応殿前殿	一間四間、唐棟、檜皮葺	明治 19	青山長七
11	五社天王社	五間一間、流造、檜皮葺	明治 29	青山長七
12	三光天王社	桁行正面一間、背面二間、梁間二間、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	昭和 2	浅草屋新蔵
13	夜守天王社	一間社、入母屋造妻入、向拝付き、檜皮葺	昭和前期	
14	妙正天王社	一間社、流造、檜皮葺	大正 6	
15	縁引天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 21	
16	日車天王社	一間社、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	明治 41	
17	荒熊天王社	一間社、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	大正 8	浅草屋光次郎
18	朝日天王社	一間社、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	明治 42	
19	信受・照両天王社	一間社、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	昭和 6	田島国太郎
20	羽弥御崎天王社	一間社、入母屋造平入千鳥破風付き、向拝唐破風付き、檜皮葺	大正 10	浅草屋光次郎
21	大乘天王社	一間社、流造、檜皮葺	大正 6	
22	御厩舎	一間二間、切妻造、本瓦葺	大正～昭和初期	
23	末廣天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 12	秋山鉄五郎
24	秀義天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 3	
25	六社天王社一富天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 28	
26	六社天王社夜守天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 28	
27	六社天王社大元鬼天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治中期	
28	六社天王社白糸天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治 28	
29	六社天王社福恵天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治中期	
30	六社天王社福崎天王社	一間社、流造、檜皮葺	明治中期	
31	鐘楼	入母屋造本瓦葺	文久 2	
32	清正公堂	一間社、入母屋造平入、銅板葺	明治 42	
33	仁王門	鉄筋コンクリート造、花崗岩切石張り	昭和 32	石田茂作・岸田日出刀



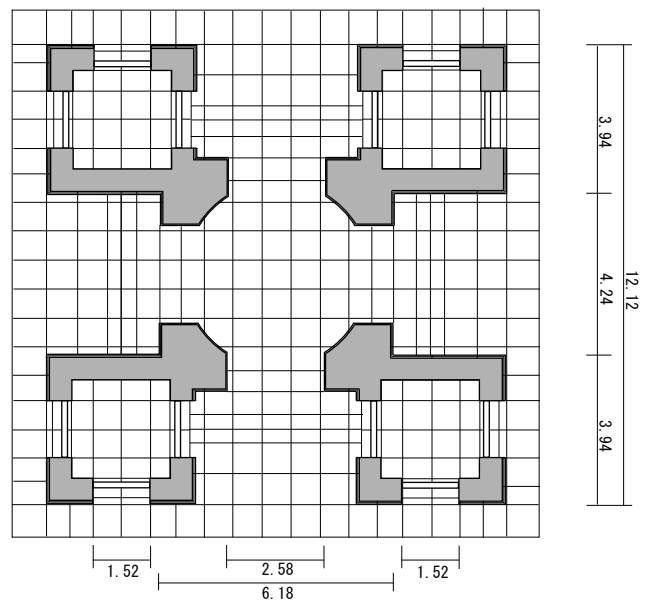
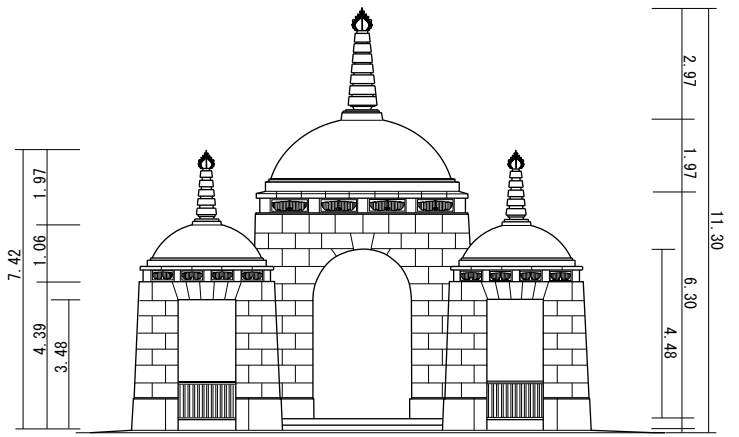
妙教寺靈王殿 (1/500)



「岡山県備中国賀陽郡高松稻荷山之図」(明治 25 年)



石田茂作のメモ (上) と
現在の仁王門 (右・1/200)



0 5m
(1/200)